

空白になっていたおれの頭に、その文字が飛び込んできた。その何行かの字は、昨日一夜漬けで読んだ資料に、すっと合体していった。

おれは相川に向かってうなずいた。

その瞬間、おれは自分でもよく知らない人間になり始めていた。

「え。お手元に資料コピー、行きわたりましたでしょうか」

のんびりとして余裕たっぷりの声がおれの口から出た。数十秒前にどっと噴き出した腋の下の汗が、いまはもうスーツの肩の下あたりで冷え始めている。

よろしい。奴ほどの名優ではないかもしれないが、大部屋俳優くらいの芝居はできるかもしれない。おれは腹をくくった。

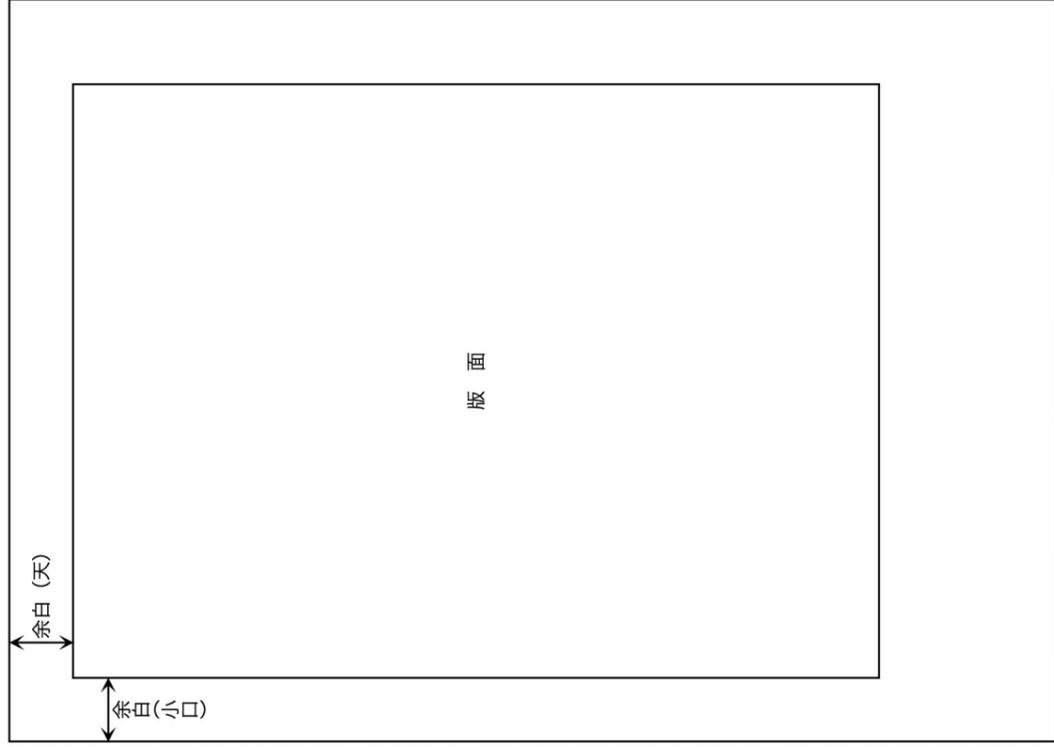
「一枚目のコピーは、我々が普段使っております、文字の大きさを表にしたものです。現在我々が見る印刷物のはほとんどは写真植字の文字でして、これは「級数」で大きさを表わします。ま、小さいものでも七級、大きいもので九十級くらいですか。ただ、本日はお持ちした資料が古いもんですから、活字の大小の表示がはいつたものを持ってきました。活字では大きさを「号数」または「ポイント」であらわします。よく我々新聞の見出しなどで見かける一番大きい文字、あれを「初号活字」といいます。以下五号、六号となるに従って字が小さくなっていきます」

おれは眼下の級数表に目を落とした。それは文字というより、寄せてくる波の光景のように美しかった。

理事長の緒上が眼鏡を鼻までずらして顔をしかめた。

後期〈組版デザイン論〉第7回(組版規則の考え方)・第8回(作例研究) 20121121  
 一例として——**文庫本の版面設計**

版面と余白との関係。版面を導き、版面と余白とを往復しながら決定する。



天 36H, 小口 36H  
 12Q ベタ組みで 38 字詰め、行間半角 (6H) で 19 行  
 →版面は 天地 =  $12 \times 38 = 456$  (H)  
 左右 =  $18 \times (19 - 1) + 12 = 336$  (H)

裁ち切りの線引いてみる 二トンボの役割を理解する

145

永遠も半ばは過ぎて

空白になっていたおれの頭に、その文字が飛び込んできた。その何行かの字は、昨日一夜漬けて読んだ資料に、すつと合体していった。

おれは相川に向かつてうなずいた。

その瞬間、おれは自分でもよく知らない人間になり始めていた。

「え。お手元に資料コピー、行きわかりましたでしょうか」

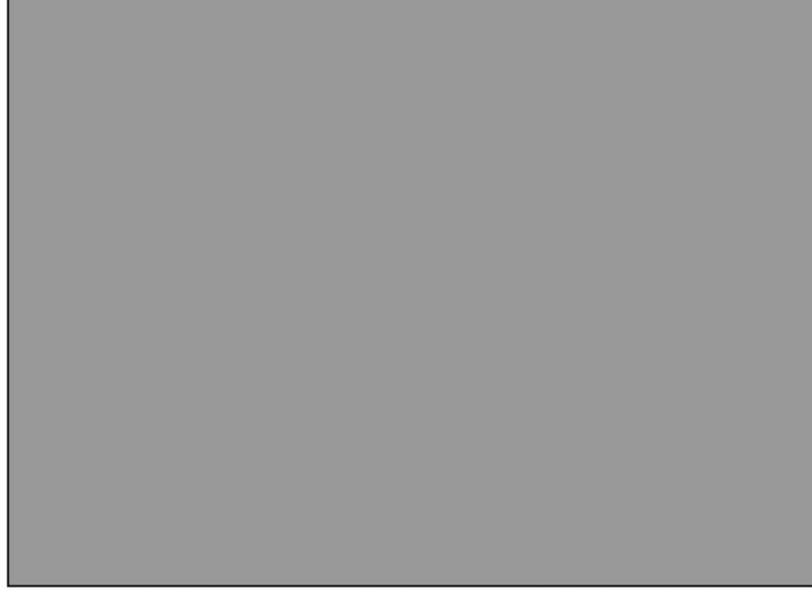
のんびりとして余裕たっぷりの声がおれの口から出た。数十秒前にどつと噴き出した腋の下の汗が、いまはもうスーツの肩の下あたりで冷え始めている。

よろしい。奴ほどの名優ではないかもしれないが、大部屋俳優くらいの芝居はできるかもしれない。おれは腹をくくつた。

「一枚目のコピーは、我々が普段使っております、文字の大きさを表にしたものです。現在我々が見る印刷物のほとんどは写真植字の文字でして、これは「級数」で大きさを表わします。ま、小さいものでも七級、大きいもので九十級くらいですか。ただ、本日はお持ちした資料が古いもんですから、活字の大小の表示がはいつたものを持ってきました。活字では大きさを「号数」または「ポイント」であらわします。よく我々新聞の見出しなどで見かける一番大きい文字、あれを「初号活字」といいます。以下五号、六号となるに従って字が小さくなっていきます」

おれは眼下の級数表に目を落とした。それは文字というより、寄せてくる波の光景のように美しかった。

理事長の緒上が眼鏡を鼻までずらして顔をしかめた。



使用書体 (漢字、仮名、欧字) を決める

空白になっていたおれの頭に、その文字が飛び込んできた。その何行かの字は、昨日一夜漬けで読んだ資料に、すっと合体していった。  
おれは相川に向かつてうなずいた。  
その瞬間、おれは自分でもよく知らない人間になり始めていた。  
「え。お手元に資料コピー、行きわたりましたでしょうか」  
のんびりとして余裕たつぷりの声がおれの口から出た。数十秒前にどつと噴き出した腋の下の汗が、いまはもうスーツの肩の下あたりで冷え始めている。  
よろしい。奴ほどの名優ではないかもしれないが、大部屋俳優くらいの芝居はできるかもしれない。おれは腹をくくつた。  
「一枚目のコピーは、我々が普段使っております、文字の大きさを表にしたものです。現在我々が見る印刷物のほとんどは写真植字の文字でして、これは「級数」で大きさを表わします。ま、小さいものでも七級、大きいもので九十級くらいですか。ただ、本日はお持ちした資料が古いもんですから、活字の大小の表示がはいつたものを持つてきました。活字では大きさを「号数」または「ポイント」であらわします。よく我々新聞の見出しなどで見かける一番大きい文字、あれを「初号活字」といいます、以下五号、六号となるに従って字が小さくなっていきます」  
おれは眼下の級数表に目を落とした。それは文字というより、寄せてくる波の光景のように美しかった。  
理事長の緒上が眼鏡を鼻までずらして顔をしかめた。

145 永遠も半ばを過ぎて

使用書体 (本文 12Q) ヒラギノ明朝体 W3 + 游築五号 仮名  
(柱 8Q) ヒラギノ明朝体 W3 + 游築五号 仮名  
(ノンブル 9Q) Adobe Garamond Pro

12Q ベタ組み、行送り変更 18H + 1H = 19H に  
→ 版面左右 = 19 × (19 - 1) + 12 = 354 (H)

永遠も半ばを過ぎて

空白になっていたおれの頭に、その文字が飛び込んできた。その何行かの字は、昨日一夜漬けで読んだ資料に、すっと合体していった。  
おれは相川に向かつてうなずいた。  
その瞬間、おれは自分でもよく知らない人間になり始めていた。  
「え。お手元に資料コピー、行きわたりましたでしょうか」  
のんびりとして余裕たつぷりの声がおれの口から出た。数十秒前にどつと噴き出した腋の下の汗が、いまはもうスーツの肩の下あたりで冷え始めている。  
よろしい。奴ほどの名優ではないかもしれないが、大部屋俳優くらいの芝居はできるかもしれない。おれは腹をくくつた。  
「一枚目のコピーは、我々が普段使っております、文字の大きさを表にしたものです。現在我々が見る印刷物のほとんどは写真植字の文字でして、これは「級数」で大きさを表わします。ま、小さいものでも七級、大きいもので九十級くらいですか。ただ、本日はお持ちした資料が古いもんですから、活字の大小の表示がはいつたものを持つてきました。活字では大きさを「号数」または「ポイント」であらわします。よく我々新聞の見出しなどで見かける一番大きい文字、あれを「初号活字」といいます、以下五号、六号となるに従って字が小さくなっていきます」  
おれは眼下の級数表に目を落とした。それは文字というより、寄せてくる波の光景のように美しかった。  
理事長の緒上が眼鏡を鼻までずらして顔をしかめた。

145

永遠も半ばを過ぎて

空白になっていたおれの頭に、その文字が飛び込んできた。その何行かの字は、昨日一夜漬けて読んだ資料に、すっと合体していった。

おれは相川に向かってうなずいた。

その瞬間、おれは自分でもよく知らない人間になり始めていた。

「え。お手元に資料コピー、行きわたりましたでしょうか」

のんびりとして余裕たつぷりの声がおれの口から出た。数十秒前にとつと噴き出した腋の下の汗が、いまはもうスーツの肩の下あたりで冷え始めている。

よろしい。奴ほどの名優ではないかもしれないが、大部屋俳優くらいの芝居はできるかもしれない。おれは腹をくくった。

「一枚目のコピーは、我々が普段使っております、文字の大きさを表にしたものです。現在我々が見る印刷物のほとんどは写真植字の文字でして、これは「級数」で大きさを表わします。ま、小さいものでも七級、大きいもので九十級くらいですか。ただ、本日はお持ちした資料が古いもんですから、活字の大小の表示がはいつたものを持つてきました。活字では大きさを「号数」または「ポイント」であらわします。よく我々新聞の見出しなどで見かける一番大きい文字、あれを「初号活字」といまして、以下五号、六号となるに従って字が小さくなっていきます」

おれは眼下の級数表に目を落とした。それは文字というより、寄せてくる波の光景のように美しかった。

理事長の緒上が眼鏡を鼻まですらして顔をしかめた。

永遠も半ばを過ぎて

空白になっていたおれの頭に、その文字が飛び込んできた。その何行かの字は、昨日一夜漬けて読んだ資料に、すっと合体していった。

おれは相川に向かってうなずいた。

その瞬間、おれは自分でもよく知らない人間になり始めていた。

「え。お手元に資料コピー、行きわたりましたでしょうか」

のんびりとして余裕たつぷりの声がおれの口から出た。数十秒前にとつと噴き出した腋の下の汗が、いまはもうスーツの肩の下あたりで冷え始めている。

よろしい。奴ほどの名優ではないかもしれないが、大部屋俳優くらいの芝居はできるかもしれない。おれは腹をくくった。

「一枚目のコピーは、我々が普段使っております、文字の大きさを表にしたものです。現在我々が見る印刷物のほとんどは写真植字の文字でして、これは「級数」で大きさを表わします。ま、小さいものでも七級、大きいもので九十級くらいですか。ただ、本日はお持ちした資料が古いもんですから、活字の大小の表示がはいつたものを持つてきました。活字では大きさを「号数」または「ポイント」であらわします。よく我々新聞の見出しなどで見かける一番大きい文字、あれを「初号活字」といまして、以下五号、六号となるに従って字が小さくなっていきます」

おれは眼下の級数表に目を落とした。それは文字というより、寄せてくる波の光景のように美しかった。

理事長の緒上が眼鏡を鼻まですらして顔をしかめた。